フジタガンカニュース

Vol.62 2015.11.16

「飛蚊症(ひぶんしょう)」は「ひもんしょう」とは読みません❹

「飛蚊症」の症状は世間一般に広く知られる症状ですが、この「飛蚊症」という単語に対しての理解が不十分な場合も多いようです。通常、症状を自覚した場合に一度は眼科を受診している事が多く、本来は明確な診断が下されて詳細な病状説明が為されているべきなのですが、案外そうした事が不十分になっている事も多く…「眼科には行ったが、『大丈夫』としか言われずクスリも出なかった。しかし、いつまで経っても治らないので不審に思い、違う眼科に来てみた。」なーんていう事を仰って異なる先生を受診する方もあり…私は眼科の医者になった当初から、そうした誤解を生じない為にも一度は詳しい説明をした文章を作らねばなるまいと思い続けておりまして、今回の文章はそうした意図が主題となっている訳です。特に生理的な飛蚊症の場合には、症状を実感して眼科を受診しても「大丈夫ですよー」といった趣旨の病状説明となりますし、かといって治療薬もないのでクスリも処方されません。「医者が大丈夫だって言うんだから、自然に治るんだろう！」という発想は一般の方の発想としては「あるある」ですよね？少なくとも僕はそう感じるので・・・以前から「大丈夫だけど、治らないですよ！」という事を強調した説明をしておりました。しかしそれが故に…かえって患者さんには不審がられることも多かったのかもしれません(-_-;)。では、引用解説を続けます。今回の引用は「網膜裂孔」の解説部分の途中からとなっており、いきなり下の文章を読むと唐突な印象があるかもしれません。前回号の引用の最後に目を通してからお読み頂くと分かりやすいと思います。それでは、どうぞー。@@@